

特集 平成30年7月豪雨から1年 災害に備えよう



平成30年7月豪雨から1年。大切な命や財産を守るために、災害への備えを今一度確認しましょう。

変わります!防災情報(水害・土砂災害)の伝え方

警戒レベル4で全員避難! 逃げ遅れゼロへ!

市が出す避難情報と、国や県が出す防災気象情報が、5段階に整理されました。

避難情報など		防災気象情報	
警戒レベル	避難行動など	避難情報など	
警戒レベル5	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	災害発生情報 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令(市が発令)	氾濫発生情報 大雨特別警報 など
警戒レベル4 全員避難	速やかに避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示(緊急) 地域の状況に応じて緊急的または重ねて避難を促す場合に発令(市が発令)	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 など
警戒レベル3 高齢者などは避難	避難に時間を要する人(高齢者、障がい者、乳幼児など)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者など避難開始 (市が発令)	氾濫警戒情報 大雨警報 洪水警報 など
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認しましょう。	大雨注意報 洪水注意報 など (気象庁が発令)	これらは、自主的な避難行動の参考となる情報です。
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 (気象庁が発令)	

*各種の情報は、警戒レベル1~5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります

次のような内容で自治体から避難行動を呼びかけます!

呼びかけの一例

警戒レベル4 避難勧告の伝達文例

(サイレンとともにお知らせします)

■緊急放送、緊急放送、警戒レベル4、避難開始。
緊急放送、緊急放送、警戒レベル4、避難開始。

■こちらは、松山市です。

■〇〇地区に洪水に関する警戒レベル4、避難勧告を発令しました。

■〇〇川が氾濫するおそれのある水位に到達しました。

■〇〇地区の方は、速やかに全員避難を開始してください。

■避難場所への避難が危険な場合は、近くの安全な場所に避難するか、屋内の高いところに避難してください。

警戒レベルととるべき行動をまず伝えます。

避難勧告の発令を伝えます。

災害が切迫していることを伝えます。

とるべき行動を伝えます。

活用しよう!

お配りしている各種マップや情報を確認しておくことが、災害時に役立ちます。

1 改訂版まつやま防災マップ

平成27年3月に全戸配布。災害から身を守る方法や地域の避難場所・避難経路を確認しましょう。
配布場所 危機管理課、市民課、支所、出張所、消防署、消防支署、救急出張所、市民サービスセンター



2 まつやま内水ハザードマップ

平成29年2月に全戸配布。内水氾濫の可能性がある地域を中心に作成しています。会社や学校のほか、通勤や通学路などにある危険な箇所を知ってください。

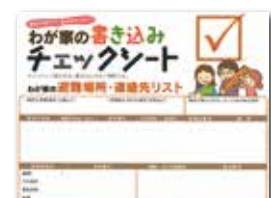


配布場所 河川水路課、市民課、支所、出張所、消防署、消防支署、救急出張所、市民サービスセンター
*内水氾濫とは…下水道や水路などの処理能力を超える大雨が降った時に、雨水を河川などに排水できなくなり起こる住宅や道路への浸水被害のこと

備えよう!

各種マップを確認し、いざという時、慌てず行動できるよう家族で普段から話し合い、また「自分の逃げ方(マイ・タイムライン)」を作成しておきましょう。

- 1 自宅の位置を確認
 - 2 災害のリスクを確認
 - 3 避難する場所を確認
 - 4 避難経路を確認
 - 5 災害時の対応を話し合う
 - 6 わが家の「避難場所・連絡先リスト」を作成
 - 7 非常持ち出し品の準備
- 「1次持ち出し品」(被災時・非常時の最初の1日をしのぐために必要なもの)はリュックに入れて準備しておきましょう。
- 救援物資が届くまで(1週間)自足するための「2次持ち出し品(備蓄品)」も準備しておきましょう。
- 実際に避難場所へ行って経路などを再確認



*まつやま防災マップに掲載

マイ・タイムラインを作ろう、使おう(国土交通省提供)



二次元コード

3 まつやま土砂災害ハザードマップ

平成30年7月豪雨を受け、土砂災害警戒区域や指定避難場所などを示したハザードマップを作成しました。土砂災害警戒区域などの周辺世帯や事業所に令和元年6月1日号の広報まつやまとあわせて配布しました。



二次元コード

4 洪水浸水想定区域図

重信川や石手川があふれたときに、どのように浸水するかをその区域を浸水の深さごとに色分けして地図上に示したものです。松山河川国道事務所や県ホームページから確認できます。



二次元コード

5 ため池ハザードマップ

南海トラフ巨大地震が近い将来発生するとされている中、ため池が万が一決壊した場合に備えるため、貯水量が10万立方メートル以上ある大規模なため池(27カ所)の、決壊による浸水想定区域の情報を市ホームページで公開しています。



二次元コード

確認しよう! 4+1の情報

気象庁や国土交通省の最新情報を確認して早めの避難をこころがけましょう。



気象庁の<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>から最新情報を確認

1. 土砂災害=土砂災害判定メッシュ情報
2. 浸水害=大雨警報(浸水害)の危険度分布
3. 洪水=洪水警報の危険度分布
4. 雨の様子=高解像度降水ナウキャスト

国土交通省の<https://www.river.go.jp/kawabou/ipTopGaikyo.do>から最新情報を確認

1. 河川水位=市内を流れる川の水位

避難情報を確認するには

さまざまな方法で避難情報を発信しています。

- 1 防災行政無線・防災無線テレホンサービス
☎986-7755(松山・北条)、☎997-1193(中島)
- 2 テレビ・ラジオ
・テレビのデータ放送やラジオ放送
・愛媛CATVの自動音声読み上げシステム
- 3 メール配信
■モバイル松山消防(災害情報メールサービス)
事前に登録した携帯電話やパソコンに、気象や災害情報を電子メールで知らせてくれます。
登録方法
1 登録用アドレスに空メールを送信します。 mtym@mpx.wagmap.jp
2 返信メールが届きますので、添付されたURLにアクセスします。
3 登録画面が開きますので、利用規約に同意して登録画面に進みます。
4 欲しい情報にチェックを入れて登録ボタンを押します-登録完了
■緊急速報メール
気象庁が配信する緊急地震速報・津波警報、国や自治体からの災害・避難情報などを対象エリアの携帯電話に携帯電話会社が一斉配信します(登録は不要)。
■県防災メール
県<https://www.pref.ehime.jp/bosai/bosaimail.html>から登録できます。
- 4 スマートフォンアプリ
・Yahoo!防災速報
・県避難支援アプリ「ひめシェルター」
*アプリは無料ですが、通信費は利用者の負担となります
- 5 SNS・ホームページ
・市ホームページ
・市防災情報Facebook
・市防災情報Twitter

「自らの命は自分が守る」意識を持ち、災害に備えましょう

避難行動が容易にとれるよう、市から警戒レベルなどの防災情報をわかりやすく提供します

復旧・復興への道

ボランティアの支援活動



ボランティア活動

市内や近隣の市町から市ボランティアセンターを通して延べ1,713人のボランティアが集まり、土砂を撤去するなど支援の輪が広がりました。

市特定被災箇所対策プロジェクトチームの応急対応



津和地(中島地区)

新たな被害の発生や2次災害を防ぐため、複合的で大規模な被害が発生している所を特定被災箇所に指定し、危険を除去しました。また、従来の担当部局の枠を超えたプロジェクトチームが、市有地、民有地に関わらず危険除去や応急対応工事を一体的に行いました。



庄(北条地区)

農業者支援



農地復旧



みかんボランティアの活動

本市では、速やかに災害復旧するため、被災された農業者の方々と現地で話し合いを重ねながら、県やJAなどの関係機関と連携し、一日も早い営農活動再開に向け取り組んできました。また、12月には、延べ200人を超えるボランティアが島しょ部へ渡り、被災圃地の土砂撤去や収穫・運搬などのお手伝いをしました。

農業関係復旧対象	件数
農地	326件
ため池などの農業用施設	539件
農業用モノレール、農業用機械などの修復箇所	1,644件

引き続き各部署一丸になって復旧・復興に取り組みます

~自分たちのまちは自分たちで守る~ 自主防災組織の活動に参加しましょう

地域に住む人が、平常時からお互いに協力し合うため結成する防災組織をいいます。本市では、平成24年8月で市内全ての地区(現在755組織)に自主防災組織が結成されています。



高浜地区自主防災連合会の活動の様子

平常時には防災知識の普及や啓発、災害発生時には、情報を収集して住民に迅速に伝えるほか、初期消火活動、被災者の避難誘導や避難所の運営などの役割を担います。いざという時に備えて、普段から地域の防災活動に参加しましょう。